福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100〜110周年
標　語
感謝の百年
希望の百年
(テサロニケ第1/5：18)

1963年9月20日　第3種郵便物許可（毎月一日発行）
2016年9月1日（木）　第755号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人/金 性 済・編集人/金 柄 鎬
印刷所　青丘文化社

人権主日
説　教

道を探し求めて

＜哀歌3：40〜42＞

鄭 守 煥 牧師（社会委員長 / 豊橋教会）

『わたしたちは自らの道を探し求めて主に立ち帰ろう。
天にいます神に向かって両手を上げ心も挙げて言おう。
わたしたちは、背き逆らいました。
あなたは、お赦しになりませんでした。』

私たちにとって人権とは何でしょうか？“人として生まれたときに、持っている権利”などと辞書にはあります。総会では毎年９月の人権主日が設けられ、様々な状況の中で人権を奪われ、無視されている人たちのために各教会において覚え祈ります。ですがその祈りと同時に私たちはどのような思いをもって、この世における人権の問題と向き合ってきたのでしょうか？　恥ずかしながら私は生まれてから今まで“人権”ということについて、じっくりと真剣に考えたことがなかったのではと思うのです。なぜなら大切であることを分かっていても、当たり前のことだからこそ、ごく普通に保障され、守られているものだという思いがそこにはあったのでしょう。また偏見や差別によって私の人権が著しく侵害されていることと同じように、他者の人権を考えることができなかった、想像力に欠けていたのでしょう。

ですがあらゆる人の人権が決して当たり前のように、保障され守られているものではないのです。そのことを考えると私の無知さと想像力の足りなさが、他者の人権を軽視してきたと痛感するのです。

1923年９月１日11時58分に関東大震災が発生しました。その日の夕方以降には“朝鮮人が殺人、放火、暴動を行っている”といったデマが広がりました。３・１運動以降の朝鮮独立運動や在日朝鮮人労働運動の高まりと、朝鮮人を危険視していた日本の官憲は地域において、また政府中央においても朝鮮人暴動のデマを事実と誤認しただけでなく、それを広めることになりました。震災の翌日には戒厳令がしかれ、出動した軍隊は各地で朝鮮人を捕らえ命を奪い、各地でも軍人会、消防団、青年団などで自警団が組織され同じことを行ったのです。判断力を失った国がだした戒厳令は、自警団の危機意識をさらに高め、人の命を奪うことをも正当化させることになったのです。その結果、多くの朝鮮人の命を奪ったのは権力に煽られ、人の命を奪うことに躊躇することのなくなった民間人によるものだったのです。（在日本韓国YMCA「２・８独立宣言記念資料室」資料より）

７月29日神奈川県立障がい者支援施設「津久井やまゆり園」で、元職員によって、多くの人の尊い命が奪われ傷つけられました。元職員は深夜の施設に侵入し、全く無抵抗で就寝中の利用者たちの命に対して凶行にいたりました。犯行前には衆議院議長宛に凶行を実行することを記し、凶行犯は措置入院されていたにもかかわらず犯行に至ったのです。犯人が記していた内容は、他者の命の尊さも人権も顧みない独りよがりの考えでしかありません。その内容を理解することは私には不可能です。この事件は他の国々の報道の関心も高く、取り上げられていると報道は伝えています。さまざまな国の有力者や政治家たちが、この事件に関して哀悼の意と許されてはならないことだと憤りをあらわにしています。ですがこれは単に個人による凶行ですまされるということでもなければ、個人の育った環境や精神状況を探ったことで終わることではないと考えます。私たち人間の中に他者の人権を軽んじる思いがある限り。

本文は哀歌第三の歌である。「主の怒りの杖に打たれて苦しみを知った者」で始まる。新共同訳では「知った」と翻訳されていますが、ヘブル語では「見る・経験する」という意味を含んでいます。この歌をうたう人物はいったい何を見たのでしょうか。それは神がダビデとソロモンによって神の住まう神殿を建てたエルサレムの崩壊でした。神殿の崩壊は単に建物を失っただけでなく、神が民の中に臨在しなくなったことを意味しており哀歌の嘆きがここにあります。でも歌い手は神が再び民に顔を向けて下さることを信じ主を待ち望むのです。そのために歌い手は「わたしたちは自らの道を探し求めて主に立ち帰ろう。天にいます神に向かって両手を上げ心も挙げて言おう。わたしたちは、背き逆らいました。あなたは、お赦しになりませんでした」と自らの足らなさと、愚かさを神の御前に告白するのです。

人間はどれほど他者の命や人権に深い関心をもって生きていると言えるでしょうか。私自身のことで言えば自分や家族、ごく親しい人が傷ついた時に、“人権”の声を挙げているにすぎないのではないか、そんな思いがふとよぎるのです。“ザイニチ”がこれから先も、マイノリティーとして自らの道を探し求めて行く時、神に向かって両手を上げながら、そんな私たちの歩んできた道が独りよがりの道でなく、他者の人権を自らの人権と等しくとらえ、神がこの地に生きる道を示してくださったことの意味を悟り歩み続けるものであってほしいと願います。

2016年09月号 .indd 1　16/08/22 21:51

2016年全国教役者・長老研修会開催

主題：教会改革ー宗教改革500周年を前にして
副題：今、KCCJに求められているのは?

2016年全国教役者と長老の研修会が、去る７月18日～20日、同志社びわこリトリートセンターにて「教会改革－宗教改革500周年を前にして」という主題のもとで行われた。全国教会から60名の教役者と長老が集い、主題講師としては世界教会協議会（WCC）の世界宣教と伝道委員会の総務として活躍している琴周燮牧師を招いた。また機構改革準備委員会による「KCCJにおける機構改革の課題」を発題や分団討議をするなど貴重で有益な研修会を行った。

18日は、開会礼拝（説教：金性済総会長）後、「変革的弟子としての宣教と預言者的少数者の使命」というタイトルをもって講師の琴周燮牧師による主題講演が行われた。琴周燮牧師は青年の頃よりEYC（韓国基督教青年協議会）活動を通して在日青年とも交流をして来た経験もあり、去年行われた第３回「マイノリティ問題と宣教」国際会議の際、WCCと世界教会との間で大きな役割を担ってくださった。宗教改革の本拠地であるスイスのジュネーブ所在のWCC本部から世界教会を見渡しながら、今日のKCCJにおける宣教的な意義と役割について語られ、マイノリティ教会であるKCCJに大きな勇気を与えられた講演であった。

講演の中で「わたしは、在日大韓基督教会が少数であり、韓国の大きな教団のように莫大な資金と教権はありませんが、神さまが世界の教会と宣教のために用いて下さっているという確信があります。なぜなら、在日大韓基督教会は、他の教会が理解することができない預言者的想像力を持った創造的少数だからです。神の国の福音の価値を世の価値と妥協することなく、変革の弟子道の道を歩んでいるからです」と語り、ディアスポラ教会であるKCCJ教会を「残された者」と定義しながら「残された者は、祖国に帰れることができず、後ろに捨てられた共同体ではありません。彼らは神さまから選ばれた弟子たちとしてこの地に真の教会の樹立と民族の和解、日本の宣教と伝道のために『召された共同体』なのです。したがって、わたしたちはこの地のマイノリティではなく、選ばれた正義と平和と生命宣教のための使徒たちです。その選ばれた使徒たちとして、皆さんに変革的な弟子道の道を歩んで行く預言者としての使命が与えられています」と語り、講演を結んだ。

19日は、祈祷会（説教：崔春子牧師）から始まり、金聖孝牧師による「被災地熊本」の報告を聞き、被災地の支援を続けて行なうことや熊本教会堂と牧師館の修繕工事の必要性を分かち合った。

去年の第53回定期総会において設置された総会「機構改革準備委員会」（委員長：李根秀牧師）が進めているいくつかの課題に対して発題を行なった。「総代権」に関しては中江洋一牧師、「財政」に関しては金成元長老、「組織」に関しては李根秀牧師が担当して発題をした。午後からはその発題を聞き分団に分かれ討議してから総合討議も行なった。この発題や分団などで提案された意見を機構改革委員会が受け、来年（2017年）10月に開催される第54回定期総会においては未来に向かうKCCJに相応しい改革案が提案されることを期待する。

夕礼拝は、金鐘賢牧師を講師とし霊的な恵みを受けるときが与えられ、また分団に分かれて祈祷会を行ない、20日は、閉会礼拝（説教：金必順副総会長）をもって研修会を終えた。

研修会の準備や進行などの役割を担ってくださった教育委員会（委員長：金明均牧師）や総会の重要な課題を担っている機構改革委員会（委員長：李根秀牧師）、とりわけ遠方よりお越しくださり講演を引き受けてくださった琴周燮牧師に心より感謝する。

主題講演の内容は福音新聞の次号から数回に分けて掲載する。

お知らせ

●住所変更

鄭在植牧師：〒751-0874 山口県下関市秋根新町7-7-301
電話番号：083-277-0756

東京緑洲教会：〒115-0051 東京都北区浮間3-33-23-205

郭京煥牧師：〒115-0052 東京都北区赤羽北3-26-5-1105

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。

YMCA

東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修（50名）も可能。
◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
◆韓国文化教室（チャング・カヤグム・舞踊）　◆韓国語講座　◆各種こどもクラス
◆YMCA東京日本語学校（3ヶ月～2年、短期研修）
関西◆にほんご教室（新規開講・募集中）　◆韓国民俗芸術科（舞踊・チャンゴ）

税込	平日	休・休前日
シングル	￥6,500	￥6,000
ダブル	￥10,500	￥9,700
トリプル	￥13,500	￥12,500

※朝食・コーヒー￥200（宿泊者価格）

在日本韓国YMCA　http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/　＊会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国YMCAアジア青少年センター　〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-5-5　☎03-3233-0611
関西韓国YMCAアジア青少年センター　〒537-0025　大阪市東成区中道3-14-15　☎06-6981-0782

2016年09月号 .indd 2　16/08/22 21:51

川西教会と西宮弟子教会合併式

李重載牧師委任式も挙行

西部地方会において、川西教会と西宮弟子教会が合併し、新しく「川西教会」として出発した。西部地方会副会長の韓世一牧師の司会により行われた合併式および牧師委任式では、李聖雨牧師が「互いに重荷を担いなさい」（ガラデヤ６：２）という題で両教会の合併にあたっての説教がなされた。その後、地方会長の金承熙牧師の司式のもと合併に至る経過報告と合併誓約、合併宣言がなされ、続いて合併した川西教会に委任される李重載牧師の委任式が行われた。

川西教会は1930年に池田伝道所として設立され、今年86周年を迎える歴史の長い教会であり、西宮弟子教会は2006年に李重載牧師により設立された新しい教会である。川西教会の朴斗熙牧師が事情により辞任することになり、両教会の合併の議論が始められ2016年４月29日第32回西部地方会定期総会にて合併が承認された。

李重載牧師は、1963年韓国で生まれ、木浦海洋大学、長老会神学大学院、全州大学宣教大学院などで学び、1998年に牧師按手を受けた。2004年から宣教師として来日し、2010年４月に大韓イエス教長老会（統合）から正式に日本宣教師として派遣され、2011年に西部地方会に加入した。家族は夫人と２女１男。

第3回韓日教会交流会開催

韓国の韓信教会と中部地方会、日本教会が合同で

８月１日～４日、韓国の韓信教会（韓国基督教長老会）から18名の青少年や信徒を迎え、総勢44名が参加者し「ともに生きる未来を見つめ」というタイトルで韓日教会青少年交流ツアーが中部地方において実施された。

今年で３回目を迎えるこのプログラムは、未来の韓日の平和の構築のための働き人となるべき韓日と在日の教会青少年の歴史共同学習と礼拝交流体験を実施するというもので、在日大韓が主軸となり、我が教団と宣教協約のある日本基督教団と日本キリスト教会、韓国基督教長老会韓信教会の中高生、大学生、青年、一般信徒を中心に行われた。

特に今年からは、今まで教職者や大人を中心に取り組まれたプログラムが、主役である青少年を中心に準備されたものとして自主的な意義あるプログラムとなった。一日目、在日大韓基督教会名古屋教会でのレセプションと開会礼拝（説教：村山盛芳牧師）。二日目、久々利軍事工場跡、杉原千畝記念館見学。三日目、日本基督教団名古屋中央教会で、青少年交流プログラムと韓日合同で水曜礼拝（説教：宋ジュヨン牧師）等が行われた。

神様の恵みにより３泊４日の間、韓日における平和と和解、共生について真剣に語り合い、深い交わりがもたらされた。来年は、韓国に日本･在日の教会青少年が招かれる予定である。

（報告：高誠牧師）

大韓イエス教長老会(高神)総会との協議会 開催

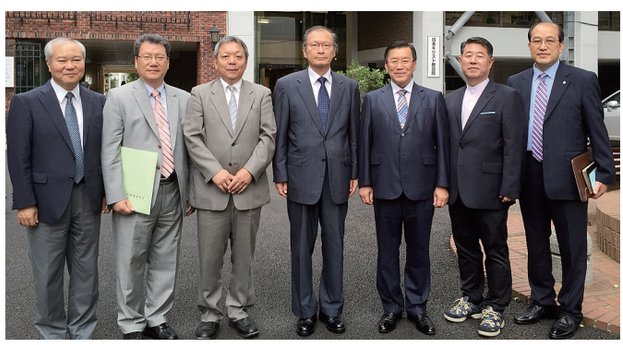
大韓イエス教長老会（高神）総会との協議会が、７月25日と26日､在日本韓国YMCA会議室と総会事務所で行なわれた。

この協議会は､本総会と宣教協力関係のない高神総会から、日本宣教師として派遣された牧師が本総会に加入する問題から始まったが、両教団が宣教協約締結の可能性を念頭に置きつつ、お互いの教団を紹介し合い、宣教的なパートナーとしての交流と協力のための協議会となった。

高神総会からは､総会長の申常顕牧師､副書記の権五憲牧師､事務総長の具滋佑牧師が参席し、本総会からは総会長の金性済牧師、副書記の金健牧師、宣教委員長の鄭然元牧師及び総幹事が参加して行われた。両教団の歴史、現状、宣教的課題などを紹介する発題を通して、宣教的協力パートナーとしての可能性を打診し、宣教協約締結に向かう進展ある協議会であった。

高神教団は、植民地時代に神社参拝強要に反対し投獄された牧師たちにより、解放による釈放後1952年に設立された、韓国においては最も保守的であるといわれる教団である。歴史的に信仰の純潔を守ろうとする一念として、外部との交流を避けてきたことは事実であるが、近年、時代的な流れに沿って慎重に海外教会との交流をしている。昨年には40年前、神学的な違いによって分裂した｢高麗｣教団と電撃的な統合をし、日本では「日本キリスト改革派教会」と宣教協力関係を結んでいる。

人的交流、プログラム交流と財政的協力及び定期出版物の交換などが話し合われた。協約締結のために、今回討議された事案を両教団の任員会や常任委員会に報告して討議され、2017年２月21日、韓国で実務者会議を経て両教団の総会に上程することになった。



2016年09月号 .indd 3　16/08/22 21:52

アジア次世代ピースビルダー育成プログラムが開催

報告：金聖泰牧師（オーストラリア留学中）

アジアの「平和（シャローム）」のために働く青年大使（Young Ambassadors）を育成するための研修プログラム（YAPA program）が６月12日から18日までアジアキリスト教協議会（CCA）の本部が位置するチェンマイ（タイ）にて開催された。

同プログラムにはインド、パキスタン、タイ、ミャンマー、スリランカ、カンボジア、インドネシア、フィリピン、パプアニューギニア、香港、台湾、韓国、日本（KCCJのみ）などの13カ国から28名の青年が参加した。参加した青年たちはそれぞれの国が抱える紛争や葛藤など平和が奪われている状況について発表し、各自のコンテキストの中での平和実現を模索した。

アジアの多くの国々が抱えている問題として、女性や子供、少数民族などの社会的弱者が抑圧されていながらも自らの状況を自由に表現することができないこと、表現できたとしても圧倒的な暴力によって押しつぶされるという共通点が見受けられた。一方、日本からの唯一の参加者であった筆者が「日本におけるヘイトスピーチ」について発表した際には、世界的に親切で平和なイメージのある日本でヘイトスピーチが行われているとは想像もしなかったという驚きの声が多く聞かれた。また他のアジアの国々の状況と比較し、自由な表現ができないということも問題であるが、他者を傷つける表現の自由までもが許されるということも新たな問題を生み出すという分析的な声もあった。

同プログラムでは６名の講師によって平和についての講義がなされたが、講師の一人であるスーザン・ジェイコブス氏（CCAコミュニケーション諮問委員）は平和と正義の関係を強調した。同氏は、「正義と平和は互いに切り離すことができない」とし、「平和は単純に戦争のない状況ではなく、正義が実現されたとき初めて平和が存在する」と主張した。

もう一人の講師であるアルピヌス・カンボジ博士は、平和は人間同士の関係だけでなく、地球上のあらゆる生物との間にも必要であるとした。カンボジ氏は被造物間の平和の必要性を参加者により具体的に感じさせるためにワークショップを行った。

最後に参加者たちはYAPAプログラムを通して学んだ内容を踏まえて各国でこれからどのようなアクションを起こしていけるのか、について発表し合った。また同じアジアに生きるキリスト者として協力と連帯によるエキュメニカル運動にも注力し平和と正義の実現を目指していくことを約束した。

CCAは今回の参加者たちが１週間の短期研修で終わるのではなく、持続的にネットワークを形成しアジア地域の平和に寄与することを願っていること、またCCAは５年以内にこのような青年平和運動を拡大していくことを目指していると訴えた。

熊本だより　～被災地支援活動に継続祈りを～

在日大韓基督教会の皆さま、熊本の被災地を覚えて祈って下さることを感謝します。

地震直後からKCCJ熊本地震被災者支援プロジェクト委員会の支援を受け、金聖孝牧師は現地スタッフとして被災地においてカフェ・デ・モンク（傾聴カフェ）など、小さいながらも支援活動に取り組んできました。６月からは避難所となっている御船町スポーツセンター（８月２日現在約170名）において、毎週火・木・金曜日10時から16時までドリーム・カフェを日本キリスト教団九州教区と協力して開催しています。

日常生活と居場所を一瞬のうちに奪われ、将来への不安を抱えて長く避難所生活を送っておられる方々に、少しでもやすらぎの場を提供できればと願いカフェを始めました。ドリーム・カフェは「街の喫茶店」というコンセプトで出来るだけ美味しい珈琲と、珈琲に合うお菓子やピーナッツ、そして人間味豊かなマスターと店員が祈りを込めて、被災者の方々の話に耳と心を傾けています。また、被災者の交流の場として、My箸作りや折り紙、ミサンガ作りなど、子供たちや大人まで、誰もが楽しめる空間を提供しています。そして、なによりも、厳選した豆をその場で挽いてここでしか味わえない美味しいコーヒーをお出ししています。避難所で暮らしておられる方々はドリーム・カフェを楽しみにしておられ、開店時間には多くが待ち構えておられます。避難所に入るのを拒んでおられたある女性の方が、こんな素敵なカフェがあってここに移ってきて本当に良かったとおっしゃったことは、うれしいことでした。一日にアイス・コーヒーとホットコーヒー合わせて120杯ほどが出ます。避難所は９月いっぱいまでで閉鎖される見通しで、今後は、応急仮設住宅への引っ越しをされる方への支援も考えていきたいと思っています。

▲九州教区から梅崎浩二総会議長をはじめ三役がボランティア参加してくれました

なお、KCCJ 熊本地震被災者支援プロジェクト委員会と日本キリスト教団九州教区との共同で熊本教会をボランティアセンター「エルピス熊本」を開設することとなりました。詳細はHPをご覧下さい。支援活動はまだまだ続いていきます。これからもどうぞ覚えてお祈りと支援をよろしくお願いいたします。（報告：金聖孝牧師）

2016年09月号 .indd 4　16/08/22 21:52